



**カメラマンは
要りません**

カメラワークは
AIにおまかせ

**スムーズな
AI自動追尾**

後ろ姿でも
マスク着用でも
追尾OK

**コスト
パフォーマンス**

光学ズーム12倍
ネットワーク制御ができて
この価格

**3つの
自動追尾モード**

- ①プレゼンターモード
人物を中心に追尾
- ②ゾーンモード
人物と一緒に決められた場所へ追尾
- ③ハイブリッドモード
①と②の組み合わせ



PTC310U



DL30

**リモコンで
簡単操作**

自動追尾も
ボタンひとつで
簡単スタート

zoom
Certified

米国のZoom社で
認証された機種の
日本向けモデルです。

**AI自動追尾機能をつかえば
オンライン授業や
WEB会議
セミナーなどで
リアルな映像を共有できます**

接続イメージ (USB接続の例)



AVer DL30



Full HD 1080p

Full HD 1080p

12X OPTICAL

光学12倍ズーム

2 Outputs

IP/USBの2系統

人物をAIで検知・追尾

プレゼンターモード

ゾーンモード

ハイブリッドモード

Web管理画面

安心の3年保証

AVer DL30 (ディエル サンジュウ) 製品仕様	
映像出力	Full HD 1080p
光学ズーム	12倍
パン/チルト範囲	パン: ±170°, チルト: ±90°
映像出力	IP、USB
寸法 (幅 × 奥行 × 高さ)	158.8mm × 162.2mm × 200mm
本体重量	約 1.62kg
希望小売価格: 109,800円 (税込120,780円)	
EAN/JANコード: 4719552126460	

AVer PTC310U



4K ULTRA HD

4K Ultra HD

12X OPTICAL

光学12倍ズーム

4 Outputs

HDMI / 3G-SDI / IP/USBの4系統

人物をAIで検知・追尾

プレゼンターモード

ゾーンモード

ハイブリッドモード

Web管理画面

安心の3年保証

AVer PTC310U (ピーティーシー サンイチマルユー) 製品仕様	
映像出力	4K Ultra HD
光学ズーム	12倍
パン/チルト範囲	パン: ±170°, チルト: +90° / -30°
映像出力	HDMI, 3G-SDI, IP, USB
寸法 (幅 × 奥行 × 高さ)	180mm × 145mm × 183.5mm
本体重量	約 1.7kg
希望小売価格: 260,000円 (税込286,000円)	
EAN/JANコード: 4719552126057	

AVer

自社技術・自社製造・安心品質

希望小売価格：72,000円（税込79,200円）

EAN/JANコード：4719552127016

軽量コンパクトな AI自動追尾リモートカメラ

AVer DL10



zoom

Certified

AI自動追尾機能で動きのある映像をかんたんに撮影。
オンライン参加の生徒を退屈させないライブ授業。

軽量ポータブル

重さわずか約**760g**

片手サイズの

コンパクトモデル

人を検知し追尾

AI自動
追尾機能

ジェスチャー操作

マイク内蔵

オールインワンカメラ
6倍ズーム高画質
(光学3倍×デジタル2倍)

IP/USB接続



軽量ポータブル



AI自動追尾



ジェスチャー
コントロール



マイク内蔵



IP/USB出力



200万画素



6倍ズーム
(光学3×デジタル2)



スリープモード

jp.aver.com

AVer

自社技術・自社製造・安心品質



AVer DL30

Distance Learning Tracking Camera



AI自動追尾機能搭載

オンライン授業に最適なPTZ Webカメラ



高画質カメラ

Full HD 1080p

光学12倍ズーム



オンライン+対面

ハイフレックス 授業にも最適



人を検知し追尾

AI

自動追尾機能

対面指導と家庭や地域社会と連携したオンライン教育を使いこなし、ハイブリッド化したかたちで協働的な学びを展開する必要性が求められる中、**AI自動追尾機能搭載**の AVer DL30 でより対面に近いオンライン授業をおこなうことができます。



DL30は米国のZoom社で
認証された機種の日本向けモデルです。

jp.aver.com

AVer

自社技術・自社製造・安心品質



SRT
READY



AI自動追尾リモートカメラ

PTC310U

高度な自動追尾機能により ライブ配信、
映像制作のためのPTZリモートカメラ

PTC310Uは米国のZoom社
で認証された機種 of 日本
向けモデルです。

zoom

Certified

高画質カメラ

4K ULTRA HD

光学12倍ズーム

人を検知し追尾

AI

自動追尾機能

4種類の出力に対応

IP/USB HDMI 3G-SDI



4K Ultra HD



光学12倍
ズーム



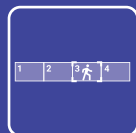
IP/USB
HDMI/3G-SDI



人物をAIで
検知・追尾



プレゼンター
モード



ゾーンモード



ハイブリッド
モード



直感的な
Web UI



天井取付用
マウント

jp.aver.com

外部マイクシステムとの連携による「話者自動追尾」システム

快適な遠隔コミュニケーション環境構築を実現

① 連携

遠隔コミュニケーションにおいて、誰が発言しているのかわからない。発言者を中心に映し出したい。そんなお悩みございませんか？高性能マイクシステムとAVerのリモートカメラを、専用ソフトウェアで連携させることにより、「話者自動追尾」システムを構築できます。「話者自動追尾」システムによって、誰が発言しているのか明確になり、より円滑なコミュニケーションが可能となります。



PTZ Link
外部マイクシステム連携ソフトウェア

Shure

IntelliMix® P300 Audio Conferencing Processor
IntelliMix® Room Audio Processing Software
Microflex® Advance™ MXA920 Ceiling Array Microphone
Microflex® Advance™ MXA710 Linear Array Microphone
Microflex® Advance™ MXA310 Table Array Microphone
Microflex® Complete Wireless

Sennheiser

TeamConnect Ceiling 2 Microphone

Yamaha

RM-CG Ceiling Array Microphone
RM-TT Tabletop Array Microphone
RM-CR Remote Conference Processor
RM-W Wireless Microphone System

Nureva

HDL300 Audio Conferencing System

② 使用

「話者自動追尾」システムは、学校やオフィスなどのシーンでご使用いただけます。学校教室などの人数が多い場所では、グループごとにフォーカスすることで、発言者へ注目させることができます。またオフィスでは発言者にフォーカスすることで、会議室で誰が話しているかわからないという問題を解決します。いずれの利用シーンにおいても対面に近い、コミュニケーション環境を実現できます。

学校



グループごとの発言者にフォーカスする

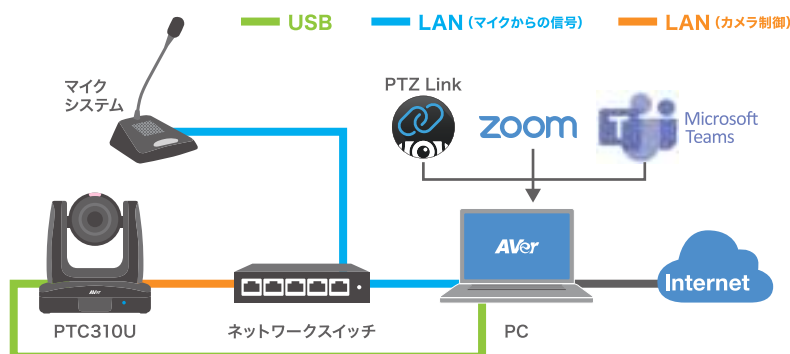
オフィス



会議室内の発言者にフォーカスする

③ 接続

ネットワークスイッチを使用してマイクシステムとカメラ、PCを同じネットワークに接続します。またPCにはマイクとカメラを連携するためのAVerのソフトウェア(PTZ Link)をインストール・常時起動が必要です。各種設定が完了後、Web会議ソフトウェア上で「話者自動追尾」システムを使用できます。



説明動画の
閲覧はこちらから



自動追尾カメラ連携で
快適環境構築！
遠隔会議システム
ウェビナー



AVer リモートカメラ+Shure
天井設置型マイクロホンで組む
「ハイブリッド会議・ハイブリッド授業向け
カメラ自動追尾システム」
オンラインセミナー



遠隔授業の オペレーションコストの削減と 誰もが簡単に実施できる環境を実現

カメラ操作を行う人員の配置など、人的コストを削減
人的コストをかけずに
遠隔授業が実施できる環境を構築

設置スペースの問題や、カメラの接続・セッティングの手間を解消
天吊による常設で **省スペース化と**
接続・セッティングに要する作業時間を削減

遠隔授業のシステムをPTC310U導入により簡素化
誰もが扱える **簡単な操作性を実現**



慶應義塾大学 湘南藤沢キャンパス 様

慶應義塾大学 湘南藤沢キャンパス (SFC) は、1990年に開設。

環境情報学部、総合政策学部、看護医療学部の3つの学部と、政策・メディア研究科、健康マネジメント研究科の2つの大学院が設置されており、5,103名 (2021年5月現在) の学生が在籍している。

在籍する学生の興味分野も非常に広く、SFCで取り組んでいる研究分野も多岐に渡っている。また、日本語が話せない海外からの留学生などが、全て英語で単位を取得することができる「GIGAプログラム」など、国際的な取り組みも積極的に行っている。

Webサイト

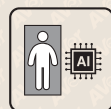
<https://www.sfc.keio.ac.jp/>



AI自動追尾リモートカメラ「PTC310U」

AI自動追尾機能を搭載したリモートカメラ。放送業界で使用できる専門性の高いプロ仕様でありながら、簡単な操作性が特徴。AIによる人物自動認知により、人物の自動追尾を可能としている。ストリーミング配信や、録画用コンテンツの制作など、1.2倍光学ズームレンズと4K解像度で高画質で臨場感のある映像の撮影が可能となっている。

主な機能



人物をAIで
検知・追尾



光学12倍
ズーム



4K Ultra HD



IP/USB
HDMI/3G-SDI

遠隔授業の研究・実践を通じて感じていた 最適な環境構築に向けた課題

多様化した社会に対し、テクノロジー、サイエンス、デザイン、ポリシーを連関させながら問題解決を図るため、1990年に開設された慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス（以下、SFC）。

環境情報学部、総合政策学部、看護医療学部の3つの学部と政策・メディア研究科、健康マネジメント研究科の2つの大学院が設置されており、5,130名（2021年5月現在）の学生が在籍している。

SFCでは20年前から遠隔授業をはじめとして、遠隔による大学間の相互連携や、遠隔医療といったインターネットを使った遠隔コミュニケーションの研究・実践に積極的に取り組んできた。

遠隔授業の研究や実践に長年取り組む中で、遠隔授業を簡単に実施できる環境を構築し、より良い授業を生徒に届けるためには、以下の課題を解消する必要性を感じていた。



遠隔授業の研究・実践に取り組む中で感じた3つの課題

1 環境整備と 実施に伴うコスト負担

導入コストや オペレーションコストを 削減する

SFCの教室に設置されていた、従来の遠隔授業用のカメラは高額なもので、さらにカメラ操作に別途コントローラーなどの周辺機器の追加購入が必要であった。

また、授業中のカメラ操作のために毎回人員を配置しなければ、教員は授業に集中できず、人的コストや負担が大きかった。

2 授業の準備や 後片付けなど

機器の接続などの 時間と手間を減らす

授業のたびにカメラを持っていき、その都度接続などを行う場合、準備に時間がかかり、円滑に授業を開始できないことや、破損や紛失のリスクも考えられる。また、使用後にカメラの後片付けや保管場所への返却など、無駄な時間と手間も発生するため、カメラは教室に常設し、すぐに使える状態にしておく必要性を感じていた。

3 操作の難しい 複雑なシステムではダメ

誰もが扱える簡単な 操作性であることが大切

遠隔授業で従来使用してきた機器は、カメラの他に映像を切り替えるスイッチャーや、カメラ操作のコントローラーなど、複数機器を併用する必要があり、誰もがすぐに使えるものではなかった。

システムへのログインやアプリインストールなどが不要で、誰もがすぐに使える、簡単な操作性でなくてはならない。

AI 自動追尾リモートカメラ「PTC310U」で課題を解決！



自動追尾機能で
カメラ操作するための
人員が不要に



講義を行う教員の様子をカメラが自動追尾して撮影するだけでなく、登録していた撮影位置にリモコンのボタン操作ひとつでカメラを自動で素早く切り替えることができます。カメラの操作に手間取ることなく、教員は授業の進行に集中することができます。

リモートカメラを
天吊方式で教室に常設し
省スペース化



付属の天吊金具を使用すれば、会議室や教室の天井にも設置が可能。利用用途や利用場所に合わせて、最適な設置方法を選択することができます。そのため、さまざまな場所への設置に柔軟に対応することができます。

複数機器を併用していた
システムをシンプル化し
操作も簡単に



授業を配信するための専用端末の設置や、カメラ操作の周辺機器も不要。リモートカメラとPCを接続するだけで簡単に使用ができ、カメラの操作や機能の呼び出しも付属のリモコンで簡単に行うことができます。

リモートカメラ「PTC310U」の選定のポイント

教員に自動フォーカスしたり
動く教員を自動追尾で
撮影したい

カメラ操作を行う人員が常駐しなくても済むよう、教員に自動でフォーカスしたり、動く教員を自動で追尾することができるカメラを求めている。

✓ AI自動追尾機能は、人物認識により自動追尾・フォーカスを行うことができる。マスク着用時や板書のために後ろを向いても、問題なく自動追尾・フォーカスが可能。

誰もが使うことのできる
簡単な操作性であること

専用アプリのインストールや、システムへのログインなどが不要で、マニュアルが無くても簡単に操作ができるシステムが必要だった。

✓ PTC310UとPCをUSBで繋ぐだけで使用可能。カメラ操作や搭載機能も付属リモコンのボタン操作ひとつで、簡単に利用可能。

教室の邪魔にならない場所に
常設したい

設置スペースの問題や、授業のたびにカメラの接続・セッティングを行う手間を解消するため、天吊で常設する必要があった。

✓ 製品付属の天吊金具を使えば天井への設置が可能。また、オプション品として壁掛け用マウントも用意されているため、利用場所の状況に合わせて設置場所を調整することができる。

User's Voice



慶應義塾大学
湘南藤沢メディアセンター
マルチメディアサービス担当 田中 真紀氏

従来の機器は、導入に多額のコストが必要だった

慶應義塾大学の6つのキャンパスには、それぞれメディアセンター（図書館）が設置されており、図書館の運営・維持業務を主にやっているのですが、湘南藤沢メディアセンターに関しては他キャンパスとは少し異なり、ビデオカメラなどのAV機器の貸出や教室で使用するAV機器の導入、メンテナンス業務なども行っています。

SFCではコロナ禍以前より遠隔授業に積極的に取り組んでおり、メディアセンターでは必要な環境の整備を行っていたのですが、従来使用してきた機器は授業を撮影するカメラだけでなく、カメラを操作するコントローラーや授業を配信する専用端末、映像を切り替えるスイッチャーなど、必要な機器を一式揃える必要がありました。

AVerの「PTC310U」は、これらの周辺機器を合わせて揃える必要がないため、今回は遠隔授業のための機器が未整備だった7つの教室に一度に導入することにしました。

誰もが簡単に使え、オペレーションコストをかけずに済む方法を模索

学生時代から研究者となった現在に至るまで、遠隔授業や遠隔医療などの遠隔コミュニケーション分野の研究をSFCで行ってきました。SFCでは20年ほど前より、他大学と遠隔で繋いだり、SFCの教室と他キャンパスの教室を繋いで遠隔授業を行ったりなど、遠隔授業の研究と実践に長年取り組んできたのですが、その中で遠隔授業の際にカメラ操作を行う人員のコストや、機器のセッティング準備に時間がかかる、機器の操作が複雑で簡単には使えない、といった課題を感じていました。

どうやったら少ない人数で、機器の操作や準備に手間をかけず、かつトラブルなく円滑に遠隔授業ができるようになるのか、そしてこうした課題を解消した上で、良い品質の映像を通じて授業を届けるにはどうしたらよいのかと、最適な方法について模索してきました。また、使用する機器についてはH.323/SIPだけでなく、Zoom/Webex/MS Teams等様々なアプリケーションが増える中、特定のアプリに閉じない汎用性の高いものである事も重要視していました。

デモンストレーションで好感触を得て、導入を決めた

そんな中、「PTC310U」の発売を知らせるプレスリリースを見て興味を持ち、AVerに依頼して実際に校内でデモンストレーションを実施した結果、課題解決に向けた手応えが得られたため、導入を決めました。AVerのデモ機貸出や製品に対する質問なども丁寧に対応してくれ、製品の納入も迅速だったため、10月の授業での利用開始に間に合わせることができました。



慶應義塾大学
SFC研究所
首席所員 工藤 紀篤氏

遠隔授業なら教育現場に新しい価値を持ってくることができる

オンラインなら自宅から授業に参加できるだけでなく、遠隔で大学間の相互連携を行うことで我々の大学には無い科目を学生に提供できたり、またその学問分野の第一人者や海外の研究者に、遠隔でゲスト講演してもらったりなども可能です。教室の中だけならできなかったことも、オンライン上ではできるので、遠隔授業を通じて教育現場に新しい価値を持ってくることができます。

授業の内容をより良いものにしていくためにも、リモートカメラなどの機器をうまく活用していくことがとても大切だと考えています。

慶應義塾大学 湘南藤沢キャンパス 様 における

AI自動追尾リモートカメラ PTC310Uの活用法

湘南藤沢キャンパスで遠隔授業の際に従来使用していたカメラは、カメラ操作を行うコントローラーや、映像切り替えのスイッチャー、動画配信に使用する専用端末など、さまざまな周辺機器を併用する必要があり、カメラ操作を行う人員を常駐させる必要があった。

「PTC310U」の導入後は、カメラ操作の人員を常駐させる必要がなくなり、また遠隔授業のシステムも簡素化できたため、オペレーションコストの削減と、誰もが簡単に遠隔授業を実施できる環境が実現した。



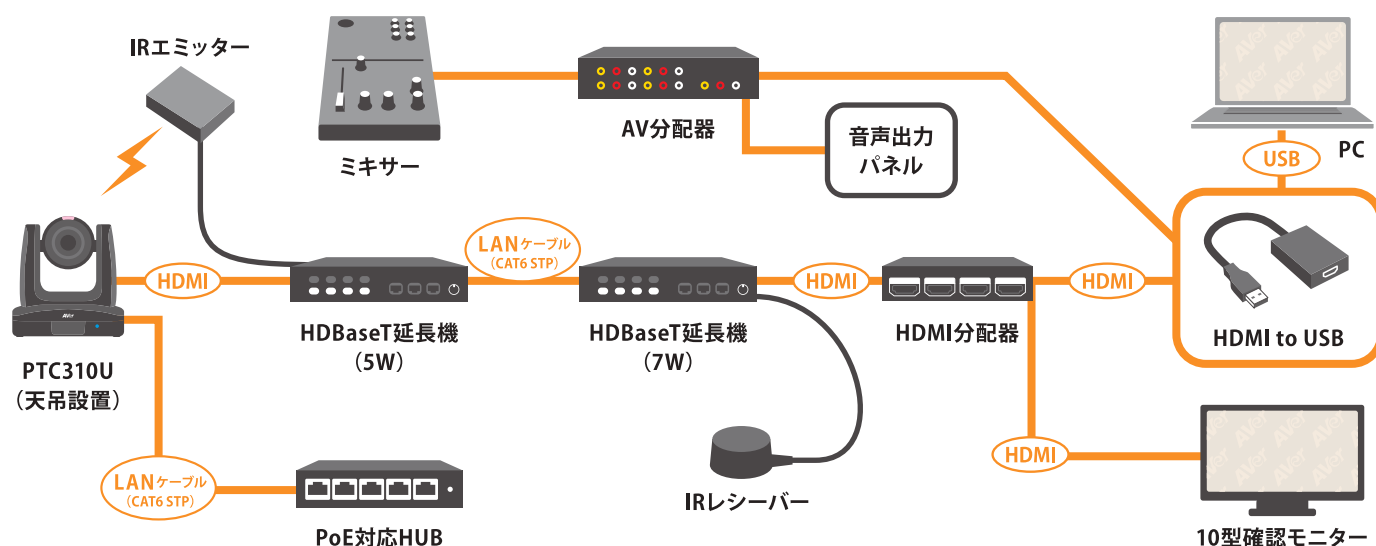
PTC310U

PTC310Uの設置方法と接続構成



注：教室天井への天吊には製品付属の天吊金具ではなく、別途用意した物を使用

70名～80名規模の4教室、126名規模の1教室、192名規模の2教室の合計7教室に「PTC310U」を導入。教室の天井に天吊方式でカメラを常設し、撮影する授業の様子は Cisco Webex や Zoom を使用し、配信を行っている。教室の天井に常設することで、授業のたびにカメラの接続・セッティングを行う手間を省くだけでなく、設置場所の省スペース化を図っている。



天吊された「PTC310U」へは、LANケーブルで給電 (PoE給電) している。「PTC310U」から接続先のPCまでは距離があるため、カメラに接続したHDMIケーブルはHDBaseT延長器を経由させて延ばし、HDMI分配機へと接続。HDMI分配機から分岐する1つは、USB変換器を通じてPCへ、もう1つは映像確認用モニターへと出力されている。また、教卓からカメラまで距離があることから、IRレシーバーを使用してリモコンの受光部を延長している。



オンライン授業の運営コスト削減と 対面授業に近い感覚で 授業配信ができる環境を実現

大きな負担だった撮影人員の手配とコスト

教員1名で簡単にオンライン授業ができる環境を実現

オンライン授業対応にともなう教員の負担を軽減

対面授業と同じ感覚でオンライン授業が可能に

リモートカメラ1台で授業の様子を臨場感のある高画質映像で配信

複数の機器を組み合わせる実施していた

授業の撮影が「PTC310U」1台だけで完結



近畿大学
KINDAI UNIVERSITY

近畿大学 通信教育部 様

創設者・世耕弘一氏の「学びたい者に学ばせたい」という理念に基づき、1957年に通信教育部（短期大学部商経科）を設置、1960年に法学部法律学科を設置。通信教育部には、法学部法律学科、短期大学部商経科の他に、資格取得を目的とする「科目等履修生」として、図書館司書コース、学校図書館司書教諭コースが設けられている。

関西の主要な総合大学で唯一、通信教育部を持つ近畿大学。いろいろな学生の「学びたい」というニーズに応えることができる総合大学の強みを活かして、通信教育部では人材育成を通じた社会貢献を目指している。

Webサイト

<https://www.kindai.ac.jp/tsushin/>



AI自動追尾リモートカメラ「PTC310U」

AI自動追尾機能を搭載したリモートカメラ。放送業界で使用できる専門性の高いプロ仕様でありながら、簡単な操作性が特徴。AIによる人物自動認知により、人物の自動追尾を可能としている。ストリーミング配信や、録画用コンテンツの制作など、12倍光学ズームレンズと4K解像度で高画質で臨場感のある映像の撮影が可能となっている。

主な機能



人物をAIで
検知・追尾



光学12倍
ズーム



4K Ultra HD



IP/USB
HDMI/3G-SDI

コロナ禍で迫られた オンライン授業への対応と 授業配信の最適な形の模索

自ら苦学した経験を持つ創設者・世耕弘一氏の「学びたい者に学ばせたい」という理念のもと、1957年に通信教育部を設置した近畿大学。学びの機会を積極的に提供したいという考えから、「遊びながら英語を学ぶ」をコンセプトにオープンした、会話は全て英語で行われる「英語村E3[e-cube]」や、24時間使用可の自習室など、通学課程、通信課程の別け隔てなく、さまざまな施設を学生に提供している。

通信教育部では、コロナ禍以前の2017年より「遠隔地に住む学生に授業を届けたい」という想いから、遠隔地に設けた会場にオンラインで授業を配信する「サテライト授業」を実施してきたが、カメラマンが教室に常駐して対応しなくてはならないなど、人的コストの課題に直面し、サテライト授業の実施回数の減少を余儀なくされた。そして、2020年に起きたコロナ禍により、オンライン授業への切り替え対応に迫られる中、あらためて以下の課題解決の必要性を強く感じた。

オンライン授業に取り組む中で感じた 3つの課題

1 撮影カメラの 操作人員が必要

人的コストに課題

これまでオンライン授業の際は、教室にカメラ操作の人員を常駐させ、朝から夕方まで1日中張り付いて授業の撮影を行ってきたが、人的コストがかかることや人員を毎回手配するのが大変だった。オンライン授業を継続的に運営していくためには、授業配信にまつわる人的コストの課題を解決する必要性を強く感じた。

2 授業スタイルの 変更が必要

授業準備の負担増加

オンライン授業へと切り替えるにあたり、教員もパワーポイントなどを使った授業スタイルへと変更する必要が出てきた。授業スタイルの変更は事前準備などで教員に負担をかけるだけでなく、教員によって資料作成のスキルにバラツキがあり、授業の質にも影響が出てしまう懸念があった。

3 ハイフレックス型の 普及に備え

ハード面の設備導入が必要

同じ授業を対面とオンラインの同時で行うハイフレックス授業では、受講する学生が目の前にいるため、対面授業に近い状況で実施される。これまではハンディカムと周辺機器を組み合わせる授業を撮影していたが、オンラインで参加する学生に質の高い授業を届けるためにも、ハード面の設備導入の必要性を感じた。

AI自動追尾リモートカメラ「PTC310U」で課題を解決！

自動追尾機能と
プリセット機能で
カメラ操作の人員が不要に



講義を行う先生の様子をカメラが自動追尾して撮影するだけでなく、登録していた撮影位置にリモコンのボタン操作ひとつでカメラを自動で素早く切り替えることができるので、板書やプロジェクターの内容なども、スムーズに撮影することが可能です。

対面授業をやる感覚で
オンライン授業を実施



普段の授業スタイルのまま、オンライン授業ができるため、先生方もオンライン授業用の特別な資料準備なども必要なく、対面授業をやる感覚でオンライン授業の配信を行うことができます。

リモートカメラ1台を
教室に置くだけで
オンライン授業ができる



リモートカメラと周辺機器との複雑な配線や設定などは一切不要。教室にリモートカメラを設置しPCに繋ぐだけで、すぐに授業の撮影・配信を始めることができます。

リモートカメラ「PTC310U」の選定のポイント

講師を自動で追尾ができる AI自動追尾機能

大きな負担となっていたカメラ操作の対応人員の問題を解決するため、カメラを自動操作・調整できるような機能を備えたカメラを求めていた。



AI自動追尾機能は、マスク着用時や板書のために後ろを向いても、問題ありません。

プリセット機能やズーム機能 といった、カメラ性能の高さ

教員が板書した内容やプロジェクターに投影した内容を撮影するために、カメラの撮影位置の切り替えや高性能なズーム機能も欠かせない。



光学12倍ズーム機能やプリセット機能を活用して、板書内容もクリアな映像をお届けすることが可能。

ハンディカムにも勝る 画質の良さ

オンラインでストレス無く授業を受けてもらうためにも、高画質で明瞭な映像を届ける必要がある。



高画質が要求されるテレビ会議システムのノウハウを持つ AVerだからこそ、画質の良さは折り紙つき。

User's Voice



近畿大学
大学運営本部通信教育部学生センター
事務長 若林 武敏 氏

人的コストの課題に直面し、サテライト授業の実施回数が減少

通信教育部では、オンラインで行うレポート提出や試験受験のほかに、実際に来校して受講する「スクーリング」、そしてオンラインで受講する「オンライン授業」「オンデマンド授業」「サテライト授業」といった形式の授業を提供しています。

授業を配信する取り組みは、コロナ禍以前より始めており、2017年に遠隔地に住む学生に授業を届けるため、遠隔地の会場に授業を配信するサテライト授業を開始しました。しかし、いざ開始してみるといろいろ課題が見えてきました。たとえば、当時は一般的なハンディカムと周辺機器を組み合わせ、授業の撮影・配信を行っていたのですが、授業の撮影時にカメラの角度をその都度調整したり、ズーム操作を手動で行う必要があるため、カメラ操作を行う人員を教室に常駐させ対応していました。しかし、朝9時から夕方5時まで行われる授業の撮影のために、カメラ操作の人員を教室に常駐させるやり方は、人的コストの面でも負担が大きく、また毎回カメラ操作を担当する人員の手配にも苦労していました。

このような課題に直面したこともあり、サテライト授業は実施回数の減少を余儀なくされてしまいました。

コロナ禍により迫られた、オンライン授業への切り替え対応

2020年に入ると新型コロナウイルス感染拡大により、対面で行っていた授業の、オンラインへの切り替え対応を迫られることになりました。その中で、かねてより感じていた人的コストの課題だけでなく、Zoomでパワーポイントなどを学生に共有して授業を行う、といった授業方式への変更に伴い、教員の授業準備の負担が増えてしまうなどの課題も、あらためて感じました。

また、パワーポイントなどの作成スキルは教員によってバラツキがあるため、対面授業では質の高い授業ができる教員も、オンライン授業となると質が低下してしまうケースも複数みられ、オンライン授業への切り替えをなかなかスムーズに進めることができませんでした。

展示会でAVerのリモートカメラ「PTC310U」に出会い、導入を即決

そんな中、展示会でAVerの「PTC310U」のデモンストレーションを拝見し、直感的に「これだ!」と思い、その場で導入を即決しました。そして、2021年7月に正式導入し、7月末に行われた入学説明会で早速使用を開始しました。入学説明会は対面説明とオンライン配信を同時に行う、ハイフレックス形式で実施したのですが、実際に参加者を前にして説明を行うため、参加者の反応を見ながら説明することができ、非常にやりやすかったです。また、リモートカメラのセッティングなどについても、AVerの方から丁寧にレクチャーしていただいたため、接続や設定に苦労することなく、簡単にセッティングすることができました。

入学説明会で使用してみた感触も良く、関係者からも好評であったことから、通信教育部では2021年9月に実施された、卒業ゼミナールのハイフレックス授業から、授業での本格的な活用を始めています。

通信教育部の経験を活かし、近大の教養科目のオンデマンド化を進めていきたい

近畿大学では「近大DX」という、授業のオンデマンド化といったデジタル化の取り組みを行っています。具体的には、近畿大学の学部横断的な教養科目を、オンデマンド授業化していくという計画なのですが、その計画の推進に、通信教育部が深く関わっています。

リモートカメラ「PTC310U」を活用し、カメラの前で通常の対面授業と同じ感覚でやってもらえれば、それをそのままオンライン授業として配信することも可能です。「近大DX」の取り組みを推進していくためにも、「PTC310U」を積極活用していければと考えています。

近畿大学 通信教育部 様における AI自動追尾リモートカメラ「PTC310U」の活用法

通信教育部のオンライン授業は、教室中央に設置されたリモートカメラ「PTC310U」を、教員自らリモコンで操作して実施している。「PTC310U」の導入以前は、教室にカメラ操作の人員を常駐させ、撮影を行っていたが、現在は教員1名だけでオンライン授業ができる環境が実現しており、オンライン授業の運営コストを削減することができた。また「PTC310U」のAI自動追尾機能やプリセットを活用すれば、通常の授業をそのままオンライン授業として配信できるため、オンライン授業への特別な準備が不要となり、教員の授業準備の負担軽減も図ることができた。

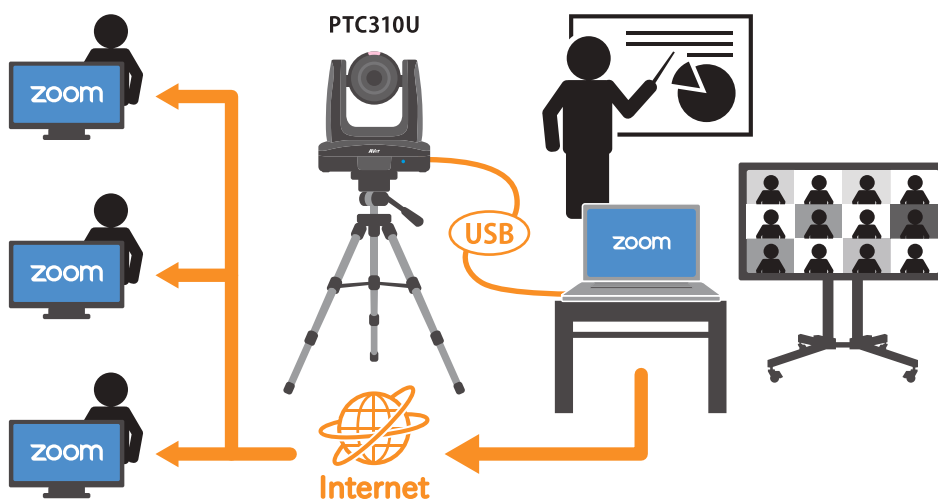
実際の活用シーン



2021年9月に行われた、通信教育部の卒業ゼミナールの授業から「PTC310U」の本格活用を開始。卒業ゼミナールは、対面授業とオンライン配信を同時に行う「ハイフレックス授業」の形式で実施。参加者がいない中で授業を行う「オンライン授業」とは異なり、「ハイフレックス授業」は目の前の学生の反応を確かめながら、授業を進めることができるため、教員も普通の授業に近い感覚ででき、非常にやりやすいと感じている。



「PTC310U」は教室中央に設置。授業を行う教員の様子は自動追尾機能を使い、撮影している。また、黒板の撮影については、黒板を2つのエリアにわけ、それぞれのエリアをプリセット登録し、ボタン操作ひとつで撮影範囲を素早く切り替えられるようにしている。カメラ操作については、教員自身がリモコンで行っている。そのため、以前のようにカメラ操作の人員を教室に常駐させる必要がなくなり、教員1名体制でオンライン授業を実施できるようになった。



オンライン授業時の接続方法は至ってシンプルで、教室中央に設置した「PTC310U」と教卓上のノートPCをUSBケーブルで接続するだけのシンプルな接続構成となっている。また、授業の配信についてはWeb会議ツール「Zoom」を使用し、Zoomで参加する学生の様子は、教室前方に設置された大型モニターに投影している。

かんたんハイフレックス授業パッケージ

書画カメラ・AI自動追尾カメラはAVer

ハイフレックス授業をはじめやすい**3つの特長**

ワンオペ
撮影

カメラマンは
要りません

かんたん
接続

USBで繋ぐだけ

コスト
パフォーマンス

はじめやすい
低価格

AI自動追尾カメラ&書画カメラで

オンライン参加の生徒が退屈しない
動きのあるハイフレックス授業ができる!

アバーがご提案するハイフレックス授業を円滑に進めるためのオールインワンパッケージ 活用事例のご紹介

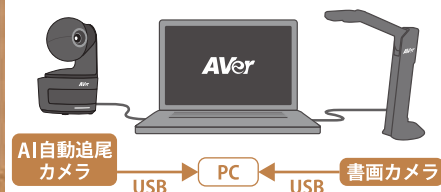


手元の資料を書画カメラ
黒板や先生を自動追尾カメラで
ワンタッチで切替え可能

①観察 花のつくり
②花を正しく分解する
③花のつくりを理解する

USB接続だけのかんたん設定

システム構成図



先生は画面共有の切替えを
おこなうだけのかんたん操作

アバーのAI自動追尾カメラと書画カメラを組み合わせた「ハイフレックス授業パッケージ」を活用すれば...

板書や資料の内容も、クリアな高画質映像で配信可能！

お使いのPCとUSBで繋ぐだけ！

デジタル機器に不慣れな方でも簡単に使用可能！

① 黒板／ホワイトボードを撮影する
「AI自動追尾機能付きリモートカメラ DL10」

業界最長水準
製品3年
保証



DL10



DL10 (ディーエルジュウ) 製品仕様	
画像センサー	1 / 2.8" CMOS
最大画素数	200万画素
出力解像度	1080p (IP 及び USB)
映像出力	IP USB 3.1 Gen1 Type-B
フレームレート	最大 60 fps
ズーム	最大6倍 (光学3倍 × デジタル2)
ジェスチャー コントロール	あり
AI 自動追尾機能	あり
マイク	あり (無指向性マイク)
集音範囲	5m
ホワイトバランス	オート/マニュアル

- 重さはわずか約 760g
片手サイズのコンパクトモデル
- 人を検知し追尾する「AI 自動追尾機能」搭載
- 最大6倍ズーム (光学3倍 × デジタル2倍)
- マイク内蔵



② 手元の資料・教材を撮影する
「書画カメラ M11-8MV」

業界最長水準
製品3年
保証



800万画素
高画質

M11-8MV



AverVision M11-8MV (エムジュウイチ ハチエムブイ) 製品仕様	
画像センサー	1 / 3.06" CMOS カラー画像センサー
最大画素数	800万画素
出力解像度	Full HD 1080p (3168 x 2376 USB経由)
ズーム	デジタル 20倍
フレームレート	最大 60 fps
フォーカス	オート/マニュアル
最大撮影エリア	A3対応 (420 x 315 mm)
画面回転	0° / 180°
内蔵メモリ	あり (画像約 120枚@2M)
外部メモリ対応	Micro SD, Micro SDHC (32GB), USB フラッシュメモリ (32GB)
画像効果	カラー/白黒/ネガ
ホワイトバランス/露出	オート/マニュアル
イメージ再生	あり
録画機能	あり (ソフトウェア経由)
画面キャプチャ	あり (ソフトウェア経由)
マウス注釈機能	あり (ソフトウェア経由)
タイマー	あり (ソフトウェア経由)

- 使う場所を選ばない超省スペース設置タイプ
- 最大撮影エリアA3対応
- USBバスパワー給電対応でACアダプタは不要
- 最大20倍デジタルズーム搭載

国語

文章の書き方について 1年1組 岩越先生

授業の概要

文章の書き方を覚える。句点のつけ方を学ぶ。

先生の手元を映して

★授業のポイント：先生が実際にノートに書くことで、子どもたち自身のノートと照らし合わせることができます。そのため、スムーズに実際の作業にとりかかれます。



教科書を映して違いを見つける

★授業のポイント：下準備をすることもなく気軽に子どもたちが発表の場に立つことができます。どのページを開けばよいか迷っている子どもも、実物投影装置で先生が教科書のページを映し出すことによってすぐに気づき、同じページを開くことができます。子どもたちと同じノートを使用することによって、書き始めの位置や、手順が一目でわかり、どこに何を書くのかをすぐに理解することが可能です。

算数

学びを活かし話し合おう 3年1組 安達先生

授業の概要

箱の長さが24cmで同じボールがすき間なく横に3つ、縦に2つ並んでいるときの縦の長さを求める。

自分自身の図を使って発表をしよう



★授業のポイント：子どもたちのノートを写すだけなので、新たに先生が黒板へ図を描く必要がなく時間が短縮できます。自分自身のノートを映すことで言葉だけではなく、自分で考えた図を使いながら効果的に説明することができます。また、考えがまとまっているノートを使用することで、スムーズに伝えられることができます。

算数

「いちご」を掛け算を使って簡単に教えよう 5年1組 倉岡先生

授業の概要

並べられた「いちご」の数を掛け算や引き算を使って計算する。



自分の考えを発表する



友達の意見を聴きながら、さらに詳しい説明をする



★授業のポイント：実物投影装置で映すだけで教室全体にすぐに情報が共有されます。情報が全体に共有されているので、発表者のフォローや異なる意見も言いやすくなります。視覚的にわかりやすいため先生の解説が少なく済み、他の子どもたちの発表に時間を費やすことができます。さらに、子どもたちが発表をしている横で、先生が子どもの意見を電子黒板に書き込むことで授業がテンポよく進んでいることがわかります。先生は授業のコーディネーターとして進めていき、子どもたちがメインとして活躍できる授業になっています。



熊本大学 大学院教育学研究科 教職実践開発専攻(教職大学院) 准教授 前田 康裕

熊本市では、未来の創り手を育てる教育のために、授業のあり方が大きく変わろうとしています。教師が子どもたちに知識や技能を伝えるというタイプの授業だけではなく、子どもたちが自分たちで考えたことを仲間と共有するというタイプの授業へと広がりを見せはじめています。子どもたちが、自分のノートを見せて考えを発表したり、集めてきた資料や実物を見せながら意見を述べたりするといったアウトプット型の授業が確実に増えてきています。こうした学習プロセスの中で、子どもたちは自ら知識や技能を獲得し、思考・判断・表現力を高めていくことになっていくのです。

そのためのもっとも心強い道具になるのが、この実物投影装置です。まずは教師が日常的に実物投影装置を使っていれば、子どもたちは自然とその方法を学んでいきます。それから次第に子どもたち自身が実物投影装置を使えるようになっていき、お互いに情報を伝え合う学習の道具として位置づけられていくのです。こうした学習をスムーズに展開していくためには、道具そのものが簡単で使いやすいものでなくてはなりません。熊本市が今回導入した実物投影装置はまさにその条件を満たすものであると言えます。

AVer

台湾・新北市の自社ビル内に工場を保有

150名以上の製造スタッフ

敷地面積 10,000m²

自社技術・自社製造・安心品質



自社工場と認証取得

認証済み



RoHS
Compliant

ISO 9001

ISO 14001

OHSAS 18001

IECQ QC 080000

ISO28000

ISO13485

RoHS

REACH

WEEE

Sony Green Partner

各種専門の試験機器と計測器



● 蛍光 X 線分析装置 (XRF)

● 落下試験機

● バインインチャンバー

● はんだ厚さ測定器

● 信号発生器

● 耐久性検証機器

● 精密恒温器

● X 線検査装置 (AXI)

● 無響室

● 振動試験機

● 環境シミュレーション室

● 基板外観検査装置 (AOI)

...etc.



全国
47都道府県で
活躍中!

教育ICT

製品カタログ



販売店／代理店

アバー・インフォメーション株式会社

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 3-2-26 立花新宿ビル7F

TEL : 03-5989-0290 (代表) FAX : 03-5989-0291

URL : <https://jp.aver.com>

PPDinfo.jp@aver.com

[@AVer_Japan](https://twitter.com/AVer_Japan)

2022.10